

2023年3月期 通期決算概要

- 売上高および営業利益は増収増益を継続、営業利益は通期業績予想を24%上回る。
建築用ガラス事業の好調が継続、自動車用ガラス事業で価格転嫁が進捗し通期営業黒字化。
第2四半期に欧州の自動車用ガラス事業についてピルキントン買収に伴うのれん・無形資産の減損損失488億円を個別開示項目に計上、個別開示項目後営業利益以下は赤字
- 自己資本比率とフリー・キャッシュ・フローは中期経営計画RP24の財務目標を2年連続で達成
- 2024年3月期通期売上高予想は横這い、営業利益は世界的なインフレ拡大の影響に伴い減益の見通し。
一方、税引前利益・当期利益・純利益は増益、黒字化を計画
- 2023年4月より細沼新体制がスタート、RP24最終年の仕上げと次期中期経営計画の策定の重要な1年

1. 2023年3月期 通期決算

- 当第4四半期（1-3月期）の売上高は1,973億円（前年同期比+397億円、+25.2%）、営業利益は107億円（同+52億円、+95.3%）。世界的なインフレ進行による運送費や人件費高騰の影響を受けるが、販売数量および販売価格の改善により相殺
- 累計の売上高は7,635億円（前年度比+1,630億円、+27.1%）、営業利益は348億円（同+148億円、+74.2%）。自動車用ガラス事業では、価格改善の進展に加え半導体不足の影響からの緩やかな回復もあり、通期営業黒字を達成
- 自己資本比率は10.2%（前年度末比△5.3pt）とRP24の財務目標数値である10%超を維持、フリー・キャッシュ・フローも139億円のプラス（同△84億円）と2期連続で100億円を上回る

<損益計算書および財務指標>

(億円)	1-3月期（3か月）			通期累計			FY23通期 業績予想
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	
売上高	1,576	1,973	397	6,006	7,635	1,630	7,500
営業利益	55	107	52	200	348	148	280
営業利益率	3.5%	5.4%	+1.9pt	3.3%	4.6%	+1.3pt	3.7%
個別開示項目（純額）	△7	△12	△5	36	△452	△488	△440
個別開示項目後営業利益（△損失）	48	94	47	236	△103	△340	△160
金融費用（純額）	△34	△61	△26	△125	△174	△49	△150
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	△34	-	34	△34	-	34	-
持分法による投資損益	19	20	1	75	73	△2	60
持分法投資に関する その他の利益（△損失）	△34	△4	30	△34	△15	19	
税引前利益（△損失）	△36	49	85	119	△219	△338	△250
当期利益（△損失）	△38	38	76	68	△310	△378	△340
純利益（△損失）*	△45	34	79	41	△338	△379	△370
EBITDA	144	207	62	567	750	184	
フリー・キャッシュ・フロー	212	353	140	223	139	△84	

*親会社の所有者に帰属する当期利益（△損失）

(億円)	2022年 3月末	2023年 3月末	増減
総資産	9,393	9,514	121
親会社の所有者に帰属する持分	1,453	970	△483
自己資本比率	15.5%	10.2%	△5.3pt

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	全地域で堅調な需要が継続、為替影響もあり大幅増収。高騰した原燃材料費や運送費、人件費の影響を受けるが、販売価格改善により増益。第4四半期は欧州で需要が軟化。太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調継続
自動車用ガラス事業	第4四半期は自動車メーカー向け販売価格改善がさらに進捗し、通期営業黒字を達成。部品不足による自動車生産制約の影響が続くが、徐々に解消
高機能ガラス事業	ロックダウンおよび景気減速の影響による販売数量減少や、コスト上昇影響を受け利益率は低下

(億円)	2022年3月期		2023年3月期		前年度比	
	1-3月期	累計	1-3月期	累計	1-3月期	累計
売上高						
建築用ガラス事業	750	2,818	903	3,659	153	841
自動車用ガラス事業	730	2,762	963	3,547	233	784
高機能ガラス事業	90	398	90	388	△0	△10
その他	7	27	18	41	11	14
売上高合計	1,576	6,006	1,973	7,635	397	1,630
営業利益						
建築用ガラス事業	77	281	74	336	△4	54
自動車用ガラス事業	△20	△79	52	41	72	120
高機能ガラス事業	21	99	15	87	△6	△12
その他	△24	△101	△34	△115	△10	△14
営業利益合計	55	200	107	348	52	148

2. 2024年3月期 業績予想

- 若干の円高を織り込み売上高は横這い、営業利益は世界的なインフレ拡大の影響を受け減益を計画。一方で、税引前利益・当期利益・純利益予想は増益、黒字化を予想
- エネルギー価格のやや低下を予測するが、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加の影響が継続。
金利上昇による潜在的な景気後退等のリスクにより事業環境は依然不透明
- RP24の最終年度として、引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力し重点施策「財務基盤の回復」を推進

<業績予想>

(億円)	2023年3月期		2024年3月期		増減	
	実績		予想		上期	通期
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	3,757	7,635	3,700	7,600	△57	△35
営業利益	144	348	140	300	△4	△48
個別開示項目(その他)	△449	△452	10	10	459	462
個別開示項目後営業利益	△305	△103	150	310	455	413
金融費用(純額)	△66	△174	△110	△220	△44	△46
持分法による投資利益	32	73	30	70	5	12
持分法投資に関するその他の利益(△損失)	△7	△15				
税引前利益	△345	△219	70	160	415	379
当期利益	△370	△310	40	90	410	400
純利益*	△388	△338	30	70	418	408

*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

3. RP24 に基づく構造改革施策の進捗

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗

持続的な成長が可能な事業体質を目指し主要施策を推進

3つの改革

● 事業構造改革

- ・ マレーシアの既存フロート窯で太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設を開始（2024年3月期第3四半期より生産開始予定）
- ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの拡大に向けて検討中
- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯建設完了、第3四半期から生産開始、市場拡大が続いている南米での事業拡大を推進
- ・ 高輪ゲートウェイ駅構内で透明太陽光発電窓パネルを使用した実証実験を開始



透明太陽光発電窓パネル

● 企業風土改革

- ・ “Your Voice” Surveyで従業員の声をグローバルに収集、調査結果を踏まえて企業風土改革をトップから推進すべく「リーダーシップ行動憲章」を策定
- ・ 「Inclusion & Diversity (I&D)」を「Diversity, Equity & Inclusion (DEI)」に発展、個々の従業員のキャリアパス開発、エンゲージメント向上を志向
- ・ 取締役会の多様性の確保

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗

自己資本比率、フリー・キャッシュ・フローが目標を上回る。営業利益率、純利益の改善に注力

2つの重点施策

● 財務基盤の回復

	目標数値	2022年3月期実績	2023年3月期実績
営業利益率	8%	3.3%	4.6%
純利益	3年累計300億円以上	41億円	純損失334億円
自己資本比率	10%以上	15.5%	10.2%
フリー・キャッシュ・フロー	100億円以上	223億円	139億円

- ・ 営業利益率：原燃材料費高騰、自動車生産制約等の下、コスト削減、付加価値製品の拡大、販売価格上昇により改善
- ・ 純利益：2022年3月期のロシアJV関連の減損損失68億円、2023年3月期のピルキントン買収に伴う欧州自動車用ガラス事業ののれん等減損損失488億円の会計処理を勘案すれば毎期100億円超
- ・ 2023年3月末現預金残高693億円、未使用融資枠462億円

● 高収益事業へのポートフォリオ転換

- ・ 中国の大手自動車用ガラスメーカーと中国での自動車用ガラス事業を統合

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

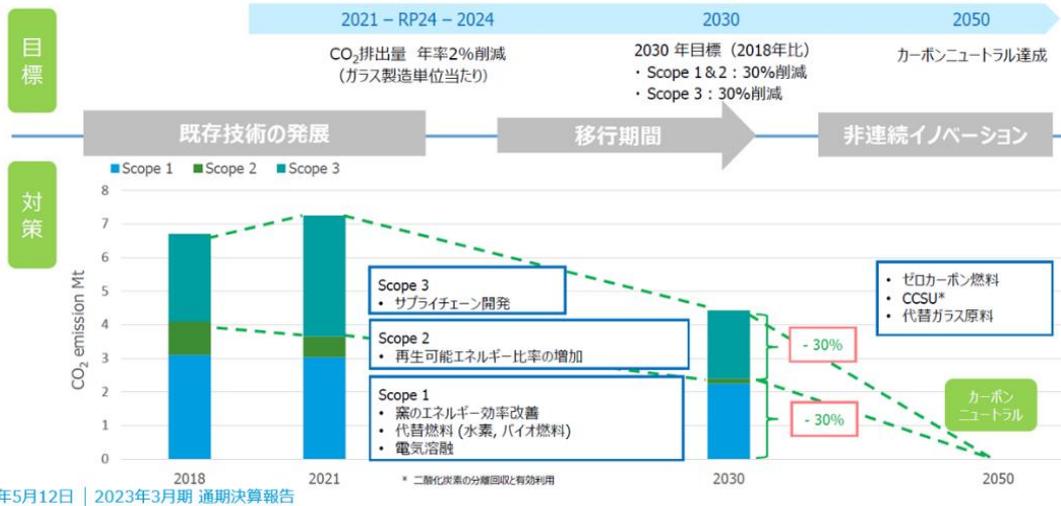
RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗 NSG GROUP

サステナビリティの推進

- 欧州で借入金利等の条件がグループのサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・リンク・ローンを締結、事業戦略遂行とサステナビリティ経営推進の両立につなげ、財務目標と非財務目標の統合を目指す



4. RP24の最終年2024年3月期に向けて

RP24の最終年2024年3月期に向けて

**2024年3月期は、グループの未来に繋がる重要な1年。
引き続きコスト削減、付加価値製品の拡大、販売価格の改善により利益とキャッシュの積み上げを推進**

2023年4月から細沼CEO体制スタート

- 引き続きRP24の構造改革施策を推進し、利益とキャッシュの積み上げに注力
 - 従業員の健康、安全、倫理・コンプライアンスを徹底し、従業員を守る
 - 不安定な市場環境のなかでも積極的かつ前向きな考え方で、主要な財務目標の達成を目指す
 - 今年度だけでなくそれ以降にもグループの成長に貢献する、"Shine"の取り組みを着実に実行する
 - 自動化およびデジタル化の取り組みを進め、より機敏でリーンな経営を実現する
 - サステナビリティおよび費用削減の両面から炭素排出削減に取り組む
 - 従業員一人ひとりおよび組織全体としてのエンゲージメントを高める
- 企業風土改革：4 (=3+1) つの「F」
Flatな組織、Frankなコミュニケーション、Fastな意思決定 + 職場におけるFun
- 将来に向けた戦略：4つの「D」
Decarbonisation (脱炭素化)、Digital、Development (新規事業・製品開発)、Diversity
- 来年度 (2025年3月期) から始まる新中期経営計画を策定開始、グループの未来につながる1年

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

<お問い合わせ>

広報部 Tel : 03-5443-0100